

## 2009 年度 活動先評価アンケート

### (1) 調査目的と対象者

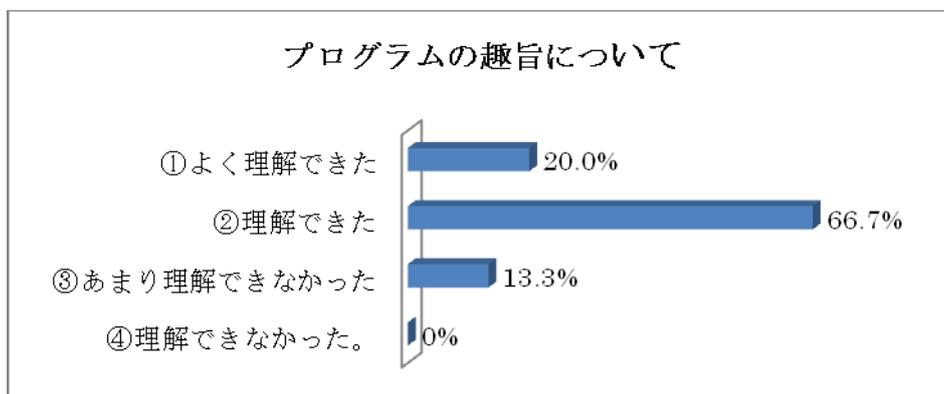
このアンケートは、初年度サービスラーニングプログラムを終えプログラムを進めた大学への意見を聞く事を目的とした。

調査時期は、2009 年 12 月に実施し、調査対象者は 2009 年度活動先 21 団体を対象とした。

アンケート回収率は、15 団体 (71.4%) であった。

### (2) 調査結果

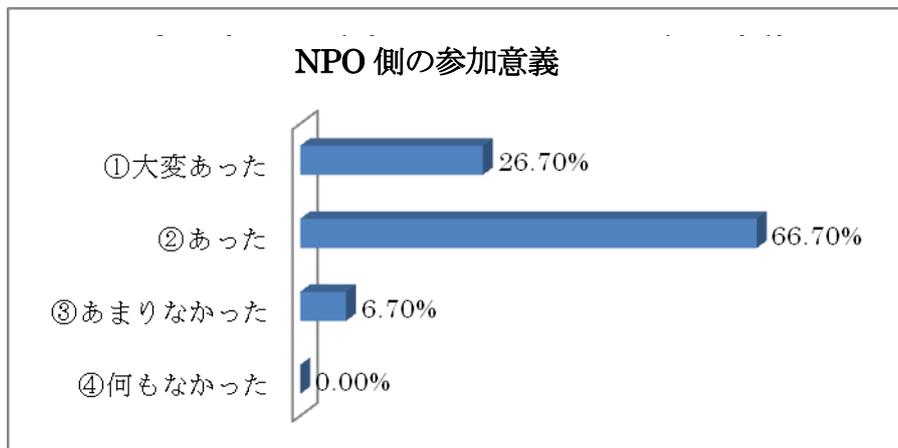
#### ① サービスラーニングプログラムについて



サービスラーニングプログラムの趣旨について、約 8 割の活動先が「よく理解できた」「理解できた」と回答した。その自由記述回答では「活動に入る前は理解しにくい所が多かったが報告書、報告会を通して学生よりその趣旨は伝わってきた」という意見がきかれた。

今回の調査では「理解できなかった」という回答はみられなかった。

#### ② プログラムに参加したことによる NPO 側の意義



このプログラムに参加したことによる NPO 側の意義は、「大変あった (26.7%)」「あった (66.7%)」を合わせると 9 割以上を占めた。

その一方で「あまりなかった (6.70%)」と回答した活動先もあり、その理由は「世話をすることが学生の

将来にどれだけ役に立つのだろうか」という疑問視される声も聞かれた。

### 自由記述結果

子ども達や地域の方々によくの体験を企画して頂き、子ども達は大きく成長した。学生にしかできない事だと思う。
今回の経験は、私達にとって自信になった。
NPO が若者を理解するチャンス
NPO の活動を学生に理解してもらおう機会になった。
今後も活動に関わってもらえる学生に出会うことができた。

### ③サービスラーニングについての感想

#### ③-1 【サービスラーニングプログラムを通じた地域との関わりについて】

- ①地域性、地域力を高めるよい機会だと思う。
- ②地域を理解する機会になる。
- ③人のために何ができるのかを考えるよい機会になる。
- ④知多半島の方と話をする機会。
- ⑤この企画は地域の中でしか学べないと思う。

#### ③-2 【受入体制について】

- ①活動内容がこれでよかったのかという思いがある。
- ②初めての受け入れで余裕がなかった
- ③学生の自立を促し、職員全体で学生を育てる気持ちが必要だと思った。
- ④団体が学生を「育てる視点」を持ち、「力を引き上げる」ことを意識して進めていかなければならない。

#### ③-3 【学生とのかかわりを通じて】

- ①普段では見ることでできない利用者の表情を見られてよかった。
- ②今までみたことのない利用者の表情を見て、普段の職員の対応を考えさせられた。
- ③施設にも大きな思い出ができた。
- ④職員も教育的な部分で多くの気づきがあった。
- ⑤大学がこのような学生を育てていることが分かった。

#### ③-4 【学生の企画の感想】

- ①人のことを考えるためのよい企画だと思った。
- ②活動日数6日間というのは、緊張感を維持できるちょうどよい期間だと思う。
- ③高齢者デイ、認知デイの2つのサービスを学ぶなら6日間連続の方が学びやすいと思う。
- ④社会で仕事をする上で必要な常識やマナーを身につけるよい機会
- ⑤学生の自由な考え方を大事にする機会になると思う。

#### ③-5 【企画への疑問点】

- ①学生に主体性がない場合はどうしたらよいか。
- ②年間を通じた活動計画として進めるべき。
- ③SLとインターンシップとの違いが分からない。
- ④「市民性を育てる活動」が何を意味するのか分からない。
- ⑤時間（期間）が短い

#### ③-6 【企画への提案】

- ①学生には「参加の定義」、団体には「人材育成の役割の定義」があれば、学生のマナーも団体の人材マネジメントも向上するのではないかと。
- ②学生はやりたいことを、事業所は学生に関わってほしいことをそれぞれプレゼンした後に学生は活動先を決定するとよい。

#### ④サービスラーニングについての提案

##### ④-1【活動開始前について】

###### ・学生側

- ①打ち合わせの時間が少ない。
- ②学生にはもっと施設に足を運んでほしい。
- ③学生はもっと現場に足を運び、自分の目で見る事が大切。
- ④現場を見ないまま企画書を作成するのはおかしい。

###### ・教員側

- ①教員の訪問があれば学生の受け止め方も違う活動になったのではないかな。
- ②教員との事前の打ち合わせや活動中の学生の指導が必要。
- ③現場で教える内容を教員とやり取りすることも大切。
- ④教員が事前訪問する時はアポイントをとってほしい。

##### ④-2【活動中について】

- ①今の学生にはほっとできる存在が必要だと思うので、教員の訪問体制について検討が必要

##### ④-3【大学との連携について】

###### ・学生指導の方向性

- ①活動施設を選択した理由が分からない。
- ②学生が何をどこまで理解しているのか伝えてほしい。
- ③教員が団体をどの程度理解した上で学生を指導しているのか不明。
- ④学生の態度がよくないことを前提として事業所をお願いすることも大事。

###### ・その他

- ①受入日程はNPO側の事情を優先してほしい
- ②他のNPOの受け入れ状況について情報交換したい。
- ③活動終了後にNPO側も確認（振り返り）できる機会があるとよい。